

第2部

「ヌカフハフ」

著：ひふみいろは

絵：長南紅梨

「諏訪の地に蛇巫這ふ。
ぬかふは

彼の者の怒りと嫉妬を買ったが最期、

その恨みはどこまでもつきまとうだろう」

推奨 P L 数： 2 ~ 3 人

通常プレイ時間： 2 ~ 3 時間

夏を舞台にした和製ホラーシナリオ。

短く、初心者 K P でも遊びやすい。

シナリオ難易度は低く、P C から死者が出る可能性は低い。

1. はじめに

このシナリオは、のどかな田舎町の背後に潜む神話的恐怖を描いたものである。物語の時期は夏。探索者は長野県諏訪に旅行に出かけることとなる。

クトゥルフ神話のみならず、日本神話が物語に絡んでいる。シナリオ中では学問技能として、〈歴史〉、〈医学〉、〈図書館〉を必須とする必要がある。また、戦闘処理の予定があることも伝え、その上で「戦闘がメインではない」とした上で多少の戦闘技能の修得は無意味でないことを教えておくべきである。

○当シナリオの特殊処理

当シナリオでは探索を、K Pが提示した場所をP Lが任意に選択して探索を行うことで進行する。

探索は一日の時間を朝昼夜で三分割するものとする。そのため、一日の行動は「朝探索→朝時間(探索者の実家)→昼探索→昼時間(探索者の実家)→夜探索→夜時間(探索者の実家)→(翌日)」というサイクルで回すこととなる。探索者たちは朝昼夜の各時間を一つ消費することによって、屋敷内の一つの場所を探索することができる。これは、物語の進行を簡易化するための仕様である。そのため、この時間経過ルールはどのような場合においても例外なく運用しなければならない。

また、朝昼夜探索の合間で、探索者たちは探索者の実家に集まって全員と情報を共有したものとする。共有たくない情報があった場合のみ、K PはP Lにその旨を宣言させればよいだろう。

K Pは、二日目朝の探索開始時に、上記の時間処理を行う旨を説明する必要がある。なお、この探索者間の情報の共有は、各探索時間の間に探索者実家で食事をしている等として、自由に共有できるものとしてよいだろう。

○シナリオ中の演出

本シナリオは三日目の夜がクライマックスとなる。物語の最終的な妨害目的となる儀式が、三日目の夜に執り行われるためである。

そのため、K Pはシナリオ中で「三日目の夜が満月となる」ことを、何らかの方法で時折描写することが望ましい。シナリオ中では、探索者が守谷家を初めて訪れた際に女中たちの会話で日付の話が出てくるため、この中に折り込むのが最適だろう。

2. 探索者

探索者については、作成時にK PからP Lに一名の探索者を指定する必要がある。諏訪に実家を持ち、かつ、史学に関わる探索者である。この探索者は物語の導入であり、事件発生時のモチベーションをつくるために不可欠だろう。

この探索者の作成者には事前に、この探索者を作成するものには、既婚者の妹(守谷佳子)がいる旨を説明しておく必要がある。諏訪を舞台とした物語に諏訪出身の探索者がいるということで注意しなければならないことがあり、探索者本人がどの程度の情報を知っているかである。K Pは、この探索者が任意で知っているであろう情報をあらかじめ設定しておくとよいだろうK Pの判断によっては、探索者は守谷慎太郎や巴とある程度の面識があってもおかしなことではない。

また、探索者たちはシナリオ中、共に寝食を過ごすのであるから、相互に親しい関係であることが望ましい。

3. 登場 N P C



・守谷巴
(もりやともえ) 15歳

STR : 8 CON : 14 SIZ : 9
INT : 15 POW : 17 DEX : 9
APP : 16 EDU : 10 SAN : 32

- ・耐久力 : 11
- ・ダメージボーナスなし
- ・技能 : ヘビ語 75%、図書館 25%、説得 30%
- ・呪文 : ミシャグジノ呪、脱皮ノ儀、イグの双眸

「…誰かをどうしようもなく好きになってしまったことは、ありますか？」

諫訪に住む中学3年生の女の子。長い鮮やかな黒髪はお嬢様然としている。幼い頃に跡継ぎのために養子として守谷家に迎えられた彼女は、美沙から魔術の手ほどきのため、閉ざされた世界で過ごしてきた。そのため、兄の慎太郎と佳子、そして家政婦の凜子以外には心を許せる存在がおらず、彼女はこれらの人間を非常に大切にしている。特に、佳子については性別を超えた想いを抱いており、兄との結婚を好ましく思ってはいなかった。

守谷家での生活の不満と、佳子の妊娠を告げられた巴は感情を爆発させ、守谷家からいなくなってしまう。これが事件の発端となるのである。

彼女は寂れた守谷神社の社でひとり、守谷家の呪術を佳子に使っている。本人は恋のおまじないと考えているが、その実体は三日三晩をかけて胎児をヘビに変貌させる恐るべき魔術なのである。佳子の身体にふりかかる恐るべき変化は、美沙とは何の関わりもなく、巴の恋心と絶望の結果なのだ。

蛇巫として豊かな才能を有しており、誰にも話したことはないが、彼女は子供の時から蛇の言葉が分かる。人目のないところでは蛇と会話するのが彼女の数少ない楽しみなのだ。

以上のように、彼女は少々異常なだけの普通の年頃の女の子である。シナリオに手を加える場合、P Cの一人に彼女とある程度仲良くなるようにさせて話を掘り下げることも可能だろう。彼女は心を許した人間には容易に心のうちを明かす。

・守谷佳子(もりやかこ) 23歳

STR:13 CON:15 SIZ:13
 INT:9 POW:13 DEX:12
 APP:14 EDU:12 SAN:65

- ・耐久力:14
- ・ダメージボーナス + 1 d 4
- ・技能：製作（料理）55%、
跳躍 53%、登攀 65%、
組付き 30%、
マーシャルアーツ（柔術）15%



「あなたたちが兄さん(姉さん)のお友達ですか？妹の佳子です。ふふ、いつも兄(姉)がお世話になっています」

守谷家に嫁入りしたばかりの女性。今回の旅行では、兄(姉)たち一行の世話をするため、守谷家から実家に戻ってきてている。

子どもの時から運動神経がよく、非常にお転婆な娘であったが、年頃になって落ち着いた。幼なじみであった守谷慎太郎と結婚し、現在ではお腹に彼の子どもを宿している。

守谷家に嫁入りした身であるが、美沙からはまったく興味を持たれておらず、守谷家のことについても何も知らないほどに無関係な人物である。

守谷巴とも幼なじみであり、慎太郎と共に幼い時分から仲良くしてきた。巴からは友情以上の感情を寄せられているが、本人にはその自覚がなくむしろ、巴から慎太郎を奪ったことで恨まれていると思い込んでいる。

彼女の鈍感さが、ミシャグジノ呪を招くことになる。

兄(姉)となる探索者の年齢に合わせて、KPは彼女の年齢を若干変動させるとよいだろう。探索者の年齢によっては、妹ではなく、姉になることも当然ありえる。



・白井凜子
(しらいりんこ) 18歳

STR:14 CON:15 SIZ:12
INT:11 POW:10 DEX:17
APP:14 EDU:10 SAN:0

- ・耐久力:14
- ・ダメージボーナス + 1 d 4
- ・技能：製作（料理）75%、
芸術（ドラマ・映画）28%、
信用 60%、聞き耳 40%、
目星 40% 日本刀 60%、ヘビ語 99%、
蛇に戻る・人間に化ける 自動成功

「え、ともちや…巴様のことですか！？ そうなんです！ 私見ちゃったんです！！」

守谷家に仕えるうら若き家政婦。肩口で切りそろえられた白い髪と少し幼さの残る顔立ちが特徴的である。

人懐っこい性格をしており、守谷家でも諏訪でも彼女を好いている人間は多い。幼い時分から、守谷家に奉公しており、守谷家の事情にもかなり詳しい。巴とも年齢が近いということもあり、仲良くしている。主の美沙とは対照的に、部外者である探索者にも寛容である。彼女自身も知らない守谷家の秘密以外のことなら、親しくなれば教えてくれるだろう。

何かと、探索者たちに親切な彼女であるが、その正体はイグの聖なるヘビである。人外である彼女であるが、情愛というものに非常に関心をもっており、巴の恋路がどうなるか見た上で家出する彼女を放置した。更に彼女は、「恋のおまじない」と称して何も知らない巴に「ミシャグジノ呪」の存在を教えたのである。巴の居場所も知りながら、美沙に対しては知らない振りをするなど、主人に対しても心を隠している部分がある。その内心では、美沙の計画についてはどうなっても構わないと考えてもおり、目的達成のために積極的に動かない面がある。

彼女はシナリオの裏でヘビの姿を取って、複雑な立ち回りをしている。

探索者が踏み込み過ぎた探索を行った場合や、シナリオの進行を無理に乱すような動きをした場合、ヘビの姿をした彼女が現れ、妨害を行うことなどもありえるだろう。

・**守谷慎太郎**

(もりやしんたろう) 25歳

STR:8 CON:10 SIZ:12
INT:14 POW:18 DEX:16
APP:13 EDU:13 SAN:72

- ・耐久力:11
- ・ダメージボーナスなし
- ・技能：隠れる 90%、説得 26%、
隠す 40%、信用 75%



「妹を助けるお手伝いをしていただけませんか？僕にとっては大切な肉親なんですね…」

守谷家の長男にして佳子の夫である。優柔不断な様子でうだつのあがらない若者である。長男であるが、守谷家の当主は代々蛇巫が継ぐことになっていることから、当主の座は妹の巴と決まっている。

巴と同様に美沙の養子として守谷家に迎えられたが、守谷家に迎えられる男の養子は当主の形式上の夫を用意するために行っているものであった。そのため、彼は守谷家の魔術に関する教育は一切受けていない。

上記のように、彼は巴の夫となるために守谷家に迎えられた存在であるが、美沙の反対を押し切り佳子と結婚を果たした。その結果、彼は美沙から特に軽んじられることとなった。

少年時代は同世代の者にイジメられがちで、佳子に助けてもらっていたということから何かと彼女には頭が上がらないでいる。佳子のいいつけであれば、大抵のことは不本意ながらも従うことだろう。

慎太郎は守谷美沙の恐るべき計画を理解していない。しかし、守谷家自身にきな臭さを感じている。そのため、彼は守谷家のことについて、探索者たちにかなり協力的な立場を取ってくれる。



・守谷美沙

(もりやみさ) 66歳

STR:10 CON:12 SIZ:13
INT:17 POW:22 DEX:10
APP:12 EDU:44 SAN:0

- ・耐久力:13
- ・ダメージボーナスなし
- ・技能：オカルト 90%、心理学 50%、ヘビ語 99%、催眠術 90%
- ・呪文：ニヨグタのわしづかみ、ミシャグジノ呪、脱皮ノ儀、他K Pが知っていると考える呪文の一切を修得させることができる。

「……お前らの仕事は巴を探すことだ。余計な口は聞くな」

代々諏訪大社の神官を務めてきた守谷家、その現当主が守谷美沙である。美沙は和服姿の初老の女性で、眼光が非常に鋭い。初対面の者のほとんどはその雰囲気に恐怖を感じることになるだろう。

行方不明になった巴の搜索を探索者たちに依頼するが、同時によそ者を快く思っておらず、必要以上のことは何もいわない。探索者には常にトゲのある態度で接する。

彼女は太古より諏訪の地でイグを崇めてきた狂信者であり、次なる当主に精神転移しながら現代まで生きてきた恐るべき魔術師である。

イグの信仰が消え、竜蛇信仰だけが残った諏訪の地で再びイグ信仰をよみがえらせるため、永遠に等しい時間を持つ彼女は水面下で着々と力をつけていく。

義理とはいえ、娘である巴についても自身の次の肉体としか認識していない。母娘間の関係は非常に冷めきっており、そのことは他人である探索者たちもすぐに察するだろう。

当主を交代し、美しくそして蛇巫として豊かな才能を持っている巴の肉体を手に入れることがシナリオ中の彼女の目的である。

- ・若林恭太郎(わかばやしきょうたろう) 29歳

STR:7 CON:9 SIZ:11
 INT:17 POW:10 DEX:9
 APP:10 EDU:18 SAN:42

- ・耐久力:10
- ・ダメージボーナスなし
- ・技能：医学 60%、精神分析 50%、
 応急手当 80%、生物学 46%、
 薬学 35%



No Image

「元気な赤ちゃんを産みたくなった時と、死にたくなった時には僕に是非とも相談してね。それじゃ」

諏訪の総合病院、小津病院に勤務する医師。優秀な精神科医兼産婦人科医で、佳子の出産にあたっての担当医でもある。

元々よそ者ということで一歩引いたところに立っており、守谷美沙の権力が及ばない人物のひとりである。探索者たちの相談には真摯に応じてくれる。もっとも、彼が知る情報というのはそれほど多くないだろう。

シナリオ中では佳子の胎内の異変を知らせるために存在している。もしも、P L の探索が順調に進まない場合、K P は適宜、彼を動かして情報提供をさせるとよいだろう。

4. シナリオ概要

とある史料の研究を行うため、史学に携わるものである探索者は実家の諏訪に帰省することになる。これを機に、妹の守谷佳子から、探索者たちを実家に招いて、諏訪で夏期休暇を過ごしてはどうかと誘われる。

そこから始まる諏訪での生活。それはとても穏やかな日々である。

しかし、そんな中で、いくつかの奇妙な事件が起きることになる。諏訪で知り合った現地の女の子、守谷巴の失踪と、守谷佳子の身体の異変である。探索者たちは、母親である美沙から巴の捜索依頼を受けたり、肉親の問題を解決するために各自目的をもって行動することになるだろう。

調査がすすむごとに、事件の背景に潜む守谷の当主、守谷美沙の存在と、守谷家の恐るべき魔女の歴史が浮かび上がってくる。守谷家は古来より諏訪大社の筆頭神官として諏訪の地を束ねてきた一族である。イグの声を聞くことができる特殊な人間「蛇巫（ヌカフ）」である守谷巴は、自らが蛇巫の跡継ぎになることを嫌い、家から逃げ出したのだ。更に、心から慕う佳子の懷妊を許さなかった巴に対し、白井凜子は面白半分に騙し、恋のおまじないと称して守谷に伝わる恐るべき魔術を授ける。それが胎児をヘビに変えるという恐るべき呪術だったのである。

物語の黒幕は、守谷美沙と白井凜子である。

守谷美沙は恐るべき魔術師であり、彼女は古代より精神転移の秘術を行い、肉体を換えて現代まで生きてきた蛇巫なのである。彼女の目的は、かつてのミシャグジ（イグ）信仰をよみがえらせることである。巴はその目的を果たすための、美沙の次なる肉体に過ぎなかつたのだ。

儀式の日は目前。守谷巴を助け、守谷の魔女の野望を阻止することができるかは探索者たち次第だろう。また、お人好しの探索者ならば、更には巴の禁断の恋についても何かしらの決着をつけてあげることもできるだろう。

5. シナリオ背景

黒幕は守谷美沙である。彼女は守谷一族の当主交代の度に、「脱皮ノ儀」という特殊な精神交換の魔術によって、神代の頃より肉体を交換しながら現代まで生きてきた魔女である。彼女の正体は諏訪大社の祭神の一柱にして、建御名方神の妃神「八坂刀売神」なのだ。

神代に、「蛇鏡」という黒曜石の鏡を通し、地下世界「クン・ヤン」に住む蛇神「イグ」の姿を見た美沙は狂信者として蛇神の巫女、「蛇巫」(ヌカフ)となる。彼女はイグのことを「ミシャグジ」と呼び、ミシャグジから与えられた様々な恐るべき魔術の力で多大な信仰を集めた。彼女は鏡を用いてミシャグジを呼び、交わり、ヘビ人間を産んだ。この子が諏訪大社の大祝、諏訪氏の始祖なのである。諏訪大社の建御名方神とは、古事記の編纂において格式を与えられた架空の名の神であり、その正体は諏訪の古代神であるミシャグジ、すなわちイグなのである。現在の諏訪に残る龍蛇信仰とは、神代より美沙が広めてきたミシャグジ(建御名方)の信仰の名残である。

守谷一族は諏訪大社の成立以降、諏訪氏を護る筆頭神官の一族として、代々諏訪の地に君臨してきた一族であるが、現在はその力を失っている。その理由は、戦後の神道衰退と諏訪一族滅亡である。しかし、信仰が形骸化した現在においても地元の名士として多大な権力を持っている。

美沙の最終的な目的は再度、ミシャグジを呼び出し、交わり、子をなすことによって新たな現人神を諏訪の地に君臨させることだ。そのためには、彼女は当主を交代しなければならない。彼女が新たな肉体として選んだのは、自らの養子であり、蛇巫の才能を持つ守谷巴だった。儀式の条件となる満月の晩に備え、美沙は巴に儀式の魔術を仕込む日々が続いている。

美沙の恐るべき計画や蛇巫の真実を知らない巴は、美沙による教育と、想い人である佳子の兄との結婚に大きな不満や失望を感じながら日々を過ごしていた。

6. 導入

史学者である探索者のもとに手紙、あるいはメールが届く。それは、諏訪にある守谷史料館の学芸員からのものであった。守谷家から預けられた古文書の一部を保管し、解読し、史料として公開している守谷史料館だが、今回の研究にあたって、探索者の助けを借りたい旨が書かれていたのである。

この連絡を受けると同時に、守谷佳子から電話が来る。守谷家に嫁入りしている彼女は、史料館の兄に対する依頼について話を聞きつけ電話をかけてきたのだ。それから、探索者に対し、「**調査も兼ねて、友人を連れて帰省したどうか**」という提案する。この時に、「**とても大切なことがあるから会って話をしたい**」と付け加えておくとよいだろう。これは、佳子が妊娠しているということを示している。

話を受けた探索者は集まり、旅行の予定を立てることになるだろう。その後は旅行にでかけるだが、事前にインターネットや新聞、ニュース等で諏訪のことや、世間での出来事を調べたいというものがいるとしたら、諏訪で山に入った若者が毒蛇に噛まれて死亡したというニュースを出すとよい。これは、ヘビに仇をなしたものが、イグの使いである聖なるヘビ(白井凜子)に噛まれた結果である。ニュースの中で何のヘビの毒なのか判明していないことや、噛み跡が日本のヘビにしては大きいこと等を伝えておくとよい。

7. 参考用イベントフローチャート

シナリオ中のイベント発生順序について例としてフローチャートを記しておく。8. マップデータ内のイベントと対照しながら確認のこと。

☆の入ったイベントはKPが自動発生させるイベントなので時系列が動くことはない。なお、()内は自動発生イベントであるが、探索者の選択によっては発生しない可能性があるものである。

以下はあくまで例であり、イベントの順番が前後することもあることを留意してほしい。

■一日目

☆【イベント1：佳子との出会い】→(☆【イベント7：何かに話しかける巴】→☆【イベント2：佳子と巴】)→☆【イベント3：晚餐】→☆【イベント4：佳子の容態】

■二日目

【イベント9：胎児の異変】→【イベント8：ヌカフハフ】→【イベント12：巴捜索の依頼】→【イベント5：巴の居所】→【イベント10：守谷ノ神秘術】

■三日目

【イベント11：巴の発見】→☆【イベント6：慎太郎の願い】→☆【イベント13：守谷家への侵入】→☆【イベント14：当主交代ノ儀】→☆【イベント15：守谷家からの脱出】→☆【イベント16：ED】

8. マップデータ

物語の舞台となる諏訪の各所のデータ。KPは探索の開始時に、「守矢神社」以外の探索箇所をPLたちに公開しなければならない。

「☆」の入ったイベントはKP自らが発生させるものである。管理には注意すること。

■ 探索者の実家

アニメや映画に出てきそうな典型的な日本家屋である。田舎の土地は余っているため広く、庭先には小さな畠もある。夕方から晩には縁側でスイカを食べて涼むこともでき、非常に風情のあるシーンを演出できるだろう。探索者の実家には特にこれといった情報はなく、自動的に起こるイベントばかりである。ただ、探索者たちの滞在中は佳子がこの家で寝食を過ごしているため、探索中に彼女と会話することは当然できるだろう。

☆【イベント1：佳子との出会い】発生時期：一日目(昼時間)

佳子の実家に到着する(到着時刻は夕方前にすべきである。)と、家の前の畠で麦わら帽子を被った女性が家庭菜園に水をやっている。彼女は探索者たちが現れると、穏やかに微笑み、それから久しぶりの兄との再会に嬉しそうな顔をする。佳子は物語のキーキャラクターの一人であり、なるべくこのシーンで探索者たちが好印象を持たせられるように描写するのが望ましいだろう。

佳子は探索者たちを家にあげると、自己紹介もそこそこに、探索者たちを歓迎するために色々準備があるといって、それから兄である探索者に対し、夜行動として、「**日が沈む前に、諏訪大社でも回ってみたらどうか**」と提案する。ここで佳子の提案に応じるかは探索者次第だろう。予想されうる答えは以下の二つである。

①諏訪大社を観光する：一足早い諏訪大社の探索となる。この場合のみ、諏訪大社項目の【イベント7：何かに話しかける巴】が発生

②佳子を手伝う：佳子と一緒に夕食の下ごしらえを済ませた後、買い物に出かけることとなる。後述の【イベント2：佳子と巴】に続く

☆【イベント2：佳子と巴】発生時期：一日目（夜探索）

買い物に出発しようとした佳子と探索者たちだが、実家の玄関前で巴と出会う。佳子の慎太郎との結婚を不服に考えていた巴は、義姉に対し、「おにいちゃ…兄さんと別れて」という意志を告げてくる。佳子本人は巴が慎太郎に対し思慕の情を抱いていると考えているため、その場は非常に険悪なものとなるだろう。

この時、空気を読んでその場から一旦下がるかどうかは探索者次第であるが、その場を退かない巴に対し、佳子は慎太郎の子どもが胎内にいるということを伝える。その言葉に衝撃を受けた巴は、そのまま何処かへ消えていってしまう。この後、巴は守谷家に帰らず、守谷神社に身を隠すことになる。

探索者が巴を追いかける可能性があるが、この場合、怒りを募らせた彼女は追ってくる探索者に対し、《イグの双眸》を使うことになる。《イグの双眸》は蛇巫の魔術の一つである。使用者とのPOW対抗に勝利しない限り、この魔術を受けた者は行動を取ることができなくなる。対抗ロールに勝利し、なおも追ってくる探索者がいる場合はイグの聖なるヘビ（白井凜子）を登場させ、探索者の足に絡みつくなどして妨害すればよい。

巴がいなくなった後、佳子と話すと、「自分が巴に恨まれている」という話をする。それから、いなくなった巴のことを「大丈夫かしら、あの娘……」と、義姉として素直に心配する素振りをみせる。

【呪文】イグの双眸

シナリオのオリジナル魔術。蛇巫だけが使用できる。MPの消費なしに使用できるものとする。この魔術を受けた者は、使用者とのPOW対抗ロールに勝利しない限り立ちすくんで動けなくなる。

☆【イベント3：晚餐】発生時期：一日目（夜時間）

佳子の提案に応じて諏訪大社に出てきた、あるいは佳子の手伝いをしていた探索者が帰宅した後、夕食が始まる。食卓に並ぶものは贅を尽くしているわけではないが、非常に手の込んでおり、どれも美味しい家庭の味である。長野では馬刺しを食べる習慣があり、これも食卓に並ぶ。探索者の出身によっては珍しさを感じるだろう。地酒やビールも出揃い、食卓は非常に楽しいムードだろう。佳子は妊娠しているため、酒は決して口にしない。食事をしている中、佳子は自身の妊娠について話を切り出す。相手は当然夫の慎太郎である。まだ妊娠三ヶ月目でほとんど変化は見られないという。

新しい命の誕生を祝い、楽しい雰囲気になる食卓。そこに若林恭太郎がやってくる。諏訪湖の近くにある小津病院勤務の産婦人科医である彼は、佳子に頼まれて撮影した胎児のエコー写真を持ってきたのだ。まだまだ小さな陰のようなものが映っているが、それは確かに人の形になっている。

写真を見て嬉しそうな顔をする佳子を見た後、若林は探索者たちに適当に挨拶して出て行く。

次項の【イベント4：佳子の容態】に続く

☆【イベント4：佳子の容態】発生時期：一日目（夜時間）

一日目の夜、寝静まっていた探索者たちのひとりが目を覚ます。目を覚ます理由は尿意でもなんでも良いだろう。シークレットダイスを振り、任意の探索者を決定してその者を目覚めさせる。部屋の外に出ると、探索者は妙な声が聞こえてくるのに気づく。それは、佳子のものである。苦悶の声であり、ただならぬ様子であることが分かる。

佳子の部屋に入り、明かりをつけると寝着のはだけた彼女がいる。身体はひどく火照っており、髪も乱れている。ひどく扇情的な姿だが、その素肌にはなにか妙な紋様が浮き出ていることがすぐに分かるだろう。何か、縄のような痕が何重にも体中を縛るように走っている。その模様は彼女の腹部に収束している。〈医学〉に成功した探索者は、医学的に見ても似た症例が見つからず、1 / 1 D 3 の正気度を喪失する。医学の判定に関わらず正気度喪失する状況と判断するのであれば、K P はその場にいる全員に同様の処理を行ってもよいだろう。

当の佳子であるが、何か酷い苦痛を訴えているようである。しかし、話しかけても返事はない。彼女は深い眠りに入っており、探索者たちの声が届かないのである。

探索者たちが救急車を呼んだ場合、佳子が救急車に運び込まれ、探索者はその付添いという形で翌朝を病院で迎え、小津病院項目の【イベント9：胎児の異変】に続く。

救急車を呼ばなかった場合は、そのまま翌朝を迎えることになる。

いずれの選択であっても、佳子の身体に浮き出た紋様は暫くすると収まり、何事もなかったように彼女は穏やかになる。

なお、佳子の身体に異変が現れるという処理自体は二日目の深夜も同様に発生する。もっとも、この時探索者たちはどうすることもできないだろうが。

☆ 【イベント5：巴の居所】発生日時：三日目（朝探索前 or 昼時間）

このイベントは三日目、朝探索前、もしくは昼時間に発生する。どちらかの時間に発生させるかはシナリオ探索状況によるため注意すること。

探索者たちが、史料館の『ヌカフハフ』、図書館の『守谷の神秘』と『蛇と女』の三冊を読み終えていた場合に発生する。朝探索前に条件が揃っていた場合はこの時に、揃っていない場合は昼時間に発生するものとする。

早朝、探索者の実家の電話が鳴る。電話に出ると、受話器越しに白井凜子の声が聞こえてくる。

彼女は、「大事なことを今になって思い出しました」といって、巴が守谷神社にいるのではないかという話を教えてくれる。この時、探索者たちは初めて諏訪の外れにある守谷神社の存在を知ることになる。

なお、この時彼女に対して〈心理学〉を行った場合、「ずっと忘れていた」という言葉について、嘘をついていることが察せられる。

☆ 【イベント6：慎太郎の願い】発生日時：三日目（朝・昼時間）

守谷神社項目内の【イベント11：巴の発見】終了後に、慎太郎が探索者の実家にやってくる。彼は顔色が悪く、それから義兄である探索者に守谷家の様子がおかしいことを伝える。かえってきた巴が放心状態で口に会話ができないこと、それから人払いがなされ、家人である自分も家から追い出されたこと、白井凜子が祭具と称して、日本刀（慎太郎にはそれが真剣であるか模造刀であるかは確認できていない）を所持して家の中を巡回するように歩きまわっていることを伝えれば、探索者もその異常性を充分意識できるだろう。

彼は警察に連絡してもまともに取り合ってもらえなかつたことを語り、巴の安否を心配していることを明かす。その上で、夜の闇にまぎれて、彼女を助けに屋敷に潜り込もうと考えていることを探索者たちに伝える。彼は探索者たちに妹を助ける手伝いをしてもらえないかと頼み込む。

また、彼はこの事態を佳子に明かすかどうかは悩んでおり、彼女がその事実を知るかは探索者の判断に委ねられる。もしも、佳子にすべてを明かすのであれば、正義感の強い彼女は守谷家潜入に対し同行することになるだろう。彼女が同行する場合、慎太郎が昔からいじめられっ子の根性なしであったを理解した上で、慎太郎を探索者の実家で留守番しているよう言いつける。これを受けた慎太郎は佳子を気遣いながらも彼女のいうことを聞くだろう。この処理はK Pが同時に二人のN P Cを同行させることの負担を軽減させるものである。

■ 諏訪大社

佳子の実家に向かう道中で、探索者たちが一番最初に存在を知る場所である。大きな鳥居と広い敷地が特徴的であり、境内には各所に御柱が立っている。現実の諏訪大社は複数の社があり、それぞれが離れた場所に存在するが、シナリオ中は社は上社(諏訪湖の南側に位置)しか存在しないことにするのが望ましい。このことは、現実の諏訪大社とシナリオ上の諏訪大社の明確な違いのため、探索者たちにあらかじめ説明しておいたほうがよいだろう。探索者たちが諏訪大社を訪れると、御柱がヘビの頭部を意味したものであることや、諏訪大社の祭神が夫の建御名方と妻の八坂刀売神であることが明らかになる。

またK Pがよいと判断した場合、建御名方が日本書紀には記されておらず、古事記にのみ登場する神であることを開示してよいだろう。

これらの情報開示にあたってK Pは〈歴史〉、〈オカルト〉、〈知識〉等を適宜使用させてよい。

以下、簡単に建御名方神と八坂刀売神、諏訪大社、ミシャグジについての情報を記しておく。K Pは適宜、以下の情報を探索者に提示するとよい。

【情報】建御名方神

古事記に登場する神。出雲の大國主大神の巫子神とされており、また蛇の姿をした軍神「諏訪大明神」と同一の存在とされている。そのため、諏訪では龍蛇信仰(龍や蛇を神として信仰の対象とする)が残っている。また諏訪大明神としての建御名方神は戦国時代には多くの武士の信仰を集め、甲斐の武田信玄も帰依していたという。

建御名方神は父神の側面を受け継いでいるためか、軍神や農耕神、狩猟神として信仰されるほか、元寇の際に諏訪の神が神風を起こしたとする伝承から風神や水神と考えられている。

日本書紀に登場しない神で、諏訪の古代神ミシャグジが権威を得て名を変えたものとする説もある。

【情報】八坂刀売神

建御名方の妃神。記紀神話に登場しない女神で、諏訪古来の神であるとも考えられているが、はつきりとしない。

【情報】諏訪大社

日本各地に存在する諏訪社の本社。建御名方神と八坂刀売神を祀っている。諏訪一族という、建御名方神と八坂刀売神の末裔が代々大祝(「現人神」のこと。諏訪大社の最高権力者)を務めてきたが、10年以上前に一族が断絶している。

【情報】ミシャグジ

諏訪の土着神で、巨大な蛇の姿であるとされている。

建御名方神登場以前より、諏訪の地に現れる以前から諏訪の地で崇拜されていた神であったが、建御名方神との争いに破れたとされている。代々諏訪大社の筆頭神官を務めてきた守谷家の先祖であるモリヤ神と同一の存在であることから、守谷一族はミシャグジの末裔にあたる。

古事記にしか名が存在しない建御名方神とは、土着神であったミシャグジが古事記の中に取り込まれ、権威と正統性を得て名を改めたものであり、同一の存在であるとする説も存在する。

☆【イベント7：何かに話しかける巴】発生時期：一日目（夜探索）

一日目、実家に到着した際に佳子の提案で諏訪大社を回ることになった場合、探索者たちは夕時前の諏訪大社に訪れる。諏訪大社には、時間が時間のため、人はまばらで探索者たち以外人がほとんど見当たらない。

この時、KPはなんらかの方法・基準で、諏訪大社を訪れた探索者の中から一名を決める。方法はシークレットダイスでも、全員に百面ダイスを振らせてその大小で決定するなり好きにするとよい。

選ばれた探索者は、諏訪大社を歩きまわっているうちに仲間と離れてしまう。そしてやってきた幣拝殿の周囲の庭で妙な光景を目撃したりにする。それは一人の女の子が腰かけ茂みに向かって談笑しているのである。そして談笑しているはずなのだが、女の子の口から出る言葉は聞いたことのない発音であり、日本語どころか何の言語かまったくわからないのだ。

この女の子とは守谷巴であり、彼女は誰にも明かしたことがないが、ヘビの言葉が分かるのである。彼女はイグの聖なるヘビ（巴は理解していないが、白井凜子である）と話をしていたのだ。あなたたちがやってくると、彼女はその気配に気づいて立ち上がる。この時に探索者は茂みに何かの白い影が消えていくのを一瞬みることができる。ダイスロールが必要だと判断するならばKPはこの情報公開にあたり、〈目星〉を振らせててもよい。

彼女は自分の異能を他人に知られることを一番恐れている。なので何をしていたかを明かすことは決してないだろう。また、探索者に話しかけられた場合、巴は「…誰かをどうしようもなく好きになってしまったことは、ありますか？」と妙な問いかけをしてくる。それから、彼女は探索者の返事を待つこともなく、何か覚悟をしたような様子でその場を後にする。

なお、巴が去った後、探索者たちが茂みの中を調べると、財布が見つかる。財布の中身を調べた場合、「白井凜子」という人物の運転免許証が入っていることと、白井凜子の住所（守谷家）が記されている。諏訪出身の探索者が見た場合、その住所が守谷家であることが自然とわかるてもよいだろう。また、この免許証を見たものは〈法律〉1／2でロールを行い、成功した場合、この免許証が偽造されたものであることに気づくことができる。

この財布は、白井凜子が落としていったものである。KPによつては、この財布を彼女が意図的に落としていたように物語をつくってもよいだろう。財布の意図は、探索者たちに守谷家を訪れさせる動機をつくっておくことである。探索者たちが佳子やモブ警官等に財布を見せた場合、自ら渡しにいく理由をつけるとよいだろう。

巴のその後の行動は『探索者の実家』の【イベント2：佳子と巴】参照

■ 守谷史料館

諏訪大社から徒歩数分の場所にある史料館。高名な芸術家兼建築家によってつくられた建物であり、周囲の自然に馴染むように、鉄平石の敷かれた屋根や、サワラの割板でできた外壁でつくられているのが特徴的である。なお、史料館は旅行の2日目以降の朝・昼に開館している。

史料館内には獣の剥製が並んでいる。その中に、臀部から脳天にかけて木串を通されたウサギの剥製がある。これは諏訪古代の狩猟文化と、その文化における神への供物の送り方が紹介されているのである。非常に成功な剥製であることと、その魔術的な背景から、探索者は0/1の正気度を喪失するものとする。この正気度喪失は、生理的な不快感だと考えてほしい。

館内の奥には解読された古文書が並んでいる。〈日本語〉に成功した場合、古文書に書かれている内容が分かる。武田信玄が諏訪大社の祭事のために多くの供物を送っていたことが記されており、その中に「鏡」という言葉が出てきていることがわかる。この鏡は守谷家の「蛇鏡」のことである。更に、KPは〈オカルト〉、〈歴史〉の判定が必要だと判断した場合にはロールをさせ、「この鏡が祭事において非常に重要なものを意味していたことが分かる」ことを教えるべきだろう。

【イベント8：ヌカフハフ】発生時期：二日目（探索）

このイベントは、クライマックスに向けての探索者のモチベーションを決定する極めて重要なイベントである。そのため、探索者が史料館へとなかなか来ない場合は、探索者の実家に史料館から電話が来たことにして、呼び出しを行ってシナリオの進行を管理するとよいだろう。

導入部で史料館から依頼を受けた探索者がこの場所を訪れた場合、スタッフに名乗り出ると二階の研究室へと通される。この部屋には解読中の古文書『ヌカフハフ』が保管されており、探索者は【〈日本語〉と〈歴史〉の合計値】による判定で解読することができる。また、【〈日本語〉と〈歴史〉の合計値】が 100 以上である場合はヌカフハフの解読に判定なしに成功したものとする。

【情報】ヌカフハフ

守谷の当主が『ヌカフ』なる存在であることが記されている。

『ヌカフ』が一体どのような存在であるかは明確には分からなかったが、『ヌカフ』は呪術的な力を持ち、長い歴史の中で信仰を集めてきたようだ。

祈りによって畠を豊作にしたり、動物と心を交わし自在に操り、時には仇なすものに強力な呪いを与えてきたようだ。ある妊婦の娘は守谷に逆らった結果、ヘビの子を産み狂死したと生々しい言葉で記されている。

ヌカフが用いる強力な呪術には「蛇鏡」という道具が必須であるという。黒曜石でできたこの鏡は、蛇神の世界と繋がっているとされている。

また、「『ヌカフ』は生まれ変わる」という。満月の夜にだけ行われる『脱皮ノ儀』とされる儀式を通し、『ヌカフ』は次なる『ヌカフ』にその魂を託し、大いなる意思と力を秘めたヌカフへと生まれ変わると記されている。

『ヌカフハフ』を読んだ者は、解読の成功失敗に関わらず 1 / 1 D 3 + 1 の正気度を喪失する。佳子の肉親や、彼女の胎児がヘビに変わりつつあることを知っている探索者は更に正気度の減少値が高まる余地はあるだろう。

『ヌカフハフ』を読み終えた探索者には、学芸員から「更にこの古文書の謎を調べたかったら図書館に行ってみたらどうか」とアドバイスを出すとよい。そうすることで、探索者は無理なく図書館へ移動できることだろう。

■ 小津病院

諏訪湖近辺の総合病院。若林恭太郎が勤務医として働いているので、探索で病院を訪れた場合は彼と話ができるだろう。

探索者の実家での【イベント4：佳子の容態】の中で救急車を呼んでいた場合、二日目の朝はここからはじまる。

☆ 【イベント9：胎児の異変】発生時期：二日目（朝探索前 or 朝時間）

このイベントは【イベント4：佳子の容態】にて救急車を呼んでいた場合、朝探索前に発生する。そのため、探索時間を消費するものではない。

救急車を呼んでいなかった場合は、事前に佳子を朝行動の時間の間に定期健診として、小津病院に移動させた上で、昼時間の際に探索者たちが若林に突如呼び出される形で進行させるべきである。

探索者たちの前に若林が現れると、「ちょっと話がある」といって人気のない個室へと案内される。そこで、彼は佳子の身体について明かす。そして、胎児のエコー写真を探索者たちの前に差し出す。これは、佳子が病院に運び込まれてから撮影したものである。〈医学〉もしくは〈生物学〉に成功したものは写真に写る胎児の姿が、爬虫類のような形に変じていることに気づく。この事実に気づいた者は1／1 D 4 + 1の正気度を喪失する。

この写真につき、若林は「医学で説明がつけられない」とひどく青ざめた様子で語る。それから、「彼女に打ち明けてよいのか分からぬ。どうしたらいいのか…」と語り、それから部屋を後にする。

なお、佳子が病院に運び込まれていた場合、容態について、問題がないと処理され、彼女はすぐに実家に戻ることになる。

■ 図書館

諏訪にある大型図書館。蔵書も豊富であり、学術書も充実している。

シナリオ中では守谷史料館での古文書解読からの流れで訪れるのが一般的だろう。

〈図書館〉に成功すると、「蛇と信仰」と「守谷の神秘」という二つの本を発見できる。失敗した場合も、同様の書籍を発見することができるが、その過程で人間の女性がだんだんとヘビに変えられていく過程を描いた奇妙な美術書を読んでしまう。その生々しさから、図書館に失敗した探索者は 0 / 1 D 3 の正気度を喪失する。

「蛇と信仰」と「守谷の神秘」は、前者は諏訪の龍蛇信仰についての研究書、後者は守谷の巫女についての研究書である。この本は持ち出しが可能であり、朝昼夜探索の一回分の行動を消費して内容を読むことができるものとする。学術書であるため、KPは必要と考えるのであれば解読にあたり、〈日本語〉でロールさせてもよいだろう。以下は二つの本を解読した際のテキストである。

【情報】蛇と信仰

蛇は古来から神であると認識されてきた。伝説上の龍が蛇に似た姿をしていること、蛇が天氣を読むと信じられていること、その理由は様々である。蛇の神性については、インドの蛇神「ナーガ」など、世界各地の神話や伝承に蛇が登場していることからも分かる。

蛇には男性と女性のそれぞれの隠喩(メタファー)であるとも考えられている。男としての側面は「諏訪大明神(建御名方神)のように蛇が戦の神として扱われている」ことが理由とされている。対して、女性としての側面は「七つの大罪において嫉妬(嫉妬は女性が抱く感情であるとされていた)が蛇の姿として描かれる」ことや、「月日に応じて脱皮する蛇の習性は女性の月経と対照的で、いずれも生と死を意味するものとして考えられていた」こと、更に「中国の女禍の伝説や、般若(般若是鬼となった女性の顔とされている)の中の一つに真蛇という蛇の顔がある」ためだという。

本の著者はこれらの見解の違いについて、「蛇の隠喩は単に男か女かを意味するものではなく、男女の交わりを示すものである。その結果として、子が生まれるという神秘を崇めたものが龍蛇信仰の本質ではないか」と考えている。

【情報】守谷の神秘

代々諏訪大社で筆頭神官を務めてきた守谷家。この一族の当主は代々が女性である。守谷家の記録によると、この当主にして建御名方神の巫女のことをヌカフと呼んでいたようだ。このヌカフと呼ばれるものは神、つまり蛇神の子を授かることだという。巫女が神の子を孕むための存在であるという考え方は神道の歴史の中に少なからず存在していたものであり、ヌカフも同様に考えられていたのではないかと述べている。

では、ヌカフとは一体なんなのか。この謎について、著者は蛇という文字がどのように派生し現代に残っているかという側面から分析を行っており、「カカ、ハハ、ヌカといった言葉は蛇が起源であるとされている。例えば、這う(はふ)、という言葉はハハが変じハフとなったものである。ヌカフ、とは守谷一族が蛇神とも考えられている建御名方神の巫女であったことから、蛇巫(ぬかふ)の意味ではないだろうか」としている。

その裏付けとして、著者は守谷家門外不出の当主交代の儀式について言及している。この儀の中で行われるという「脱皮ノ儀」という通過儀礼について、脱皮という蛇の習性に因んだものであることからも「蛇巫」説が通るのではないかと主張している。

しかし、肝心の脱皮ノ儀については記録がまったく見つからないようだ。しかも、守谷家先代当主は現当主である守谷美沙との当主交代の際に、屋敷内で発生した火事で死亡したと書かれている。美沙本人も、火事の際に意識不明となり、目覚めた後については儀式について記憶がはっきりしていないと述べており、著者は結局「脱皮ノ儀」の謎を解明するための情報は得られなかったと落胆している。

上記、「守谷の神秘」中の先代当主が火事で死んだことについて、探索者が事件の関わりを考えた場合は、K Pは「当主となって以降、美沙はまるで人が変わったかのように、厳しい人物になった」ことを開示すべきだろう。この情報はサブ、モブ問わずどんなN P Cが知っているものの他、諏訪を実家にもつ探索者が自動的に思い出すことができてもよいだろう。

■ 守谷神社

諏訪のはずれにある守谷家縁の神社であるが、辺鄙なところにあって人がまったく寄り付かない。ヘビがよく出るという噂もあり、龍蛇信仰が残る諏訪の地のものは敬して遠ざけているようで、探索者がその存在に気づくことはまずありえない。この神社の存在を知るには、白井凜子から場所を教えてもらう必要がある。

家出をした巴の潜伏先で、二日目以降にこの神社を訪れると、社の前に臀部から脳天を木串で貫かれたカエルの死骸を発見できる。そこから人が訪れていたことが判明するだろう。カエルの死骸を発見したものは0/1の正気度を喪失する。

【イベント10：守谷ノ神秘術】発生時期：三日目（探索）

守谷神社を訪れると、社の前には誰もいない。ただ、賽銭箱の縁の上に、一冊の古びた本が落いてあることがすぐに分かる。表紙には「守谷ノ神秘術」と書かれている。

この本は巴が蛇鏡と一緒に屋敷から持ちだした魔道書である。非常に難解な古文書であり、持ち主である巴自身もこの書に記されている魔術の効果は理解できておらず、もっぱらその呪文の発動方法しか分かっていない。

『守谷ノ神秘術』は発見した際にその場で読むことができる。損傷の激しい古文書で、どのような内容が記されているか解読するには、

【〈日本語〉と〈歴史〉の合計値】による判定を行う必要がある。合計値が100以上である場合は判定なしに解読できたものとする。

『守谷ノ神秘術』の解読に失敗した場合は、下記の「脱皮ノ儀」についてのみ、解読に成功した場合は、「脱皮ノ儀」と「ミシャグジノ呪」の両方についての情報を得ることができる。

【情報】守谷ノ神秘術

ひどく損傷の激しい本で、読める頁は少ない。かろうじて読めたものは、「ミシャグジノ呪」と「脱皮ノ儀」の二つの魔術について、である。以下は二つの魔術についての記述の要約である。

「脱皮ノ儀」：ヌカフの魂を新たなヌカフに移すための術だという。術の行使は二人のヌカフが脱皮ノ儀の方法を理解していることと、満月の夜であることが条件となっているようだ。術は満月の夜から行われ、術が終わった時、ヌカフ二人の魂を入れ替えることができると記されている。

「ミシャグジノ呪」：ヌカフが、三日三晩に渡ってミシャグジに生贊を捧げ、祈ることによって成立する魔術である。三日目の祈祷が終わつた時、対象の胎内にいる胎児は完全なヘビに変わるという。

また、解読の成否に関わらず守谷ノ神秘術を読んだ者は $1 / 1 D 3 + 1$ の正気度を喪失する。また、解読に成功した場合、減少した正気度の数値分だけの〈クトゥルフ神話〉を修得する。

次項の【イベント 1 1：巴の発見】に続く

【イベント 11：巴の発見】発生時期：三日目（朝・昼行動中）

三日目の朝、昼に守谷神社を訪れると守谷巴を発見することができる。K Pは必要と考えるのであれば、このイベント発生に先立って、N P Cなりを操作し、巴を守谷神社で先程見たという人物なりを用意し守谷神社へと探索者を誘導すべきである。

彼女は「佳子と慎太郎のこと」、「守谷家に連れ戻す依頼を受けたこと」、「蛇鏡のこと」さえ触れなければ、基本的には探索者に対して悪意を向けることはない。ただし、一度でも彼女の感情を刺激をすると、彼女は狂ったように怒り、佳子への想いを探索者たちにぶつけ、そして三度目の守谷の呪いの儀式を執り行なおうとする。

この儀式の危険性を理解している探索者であれば、儀式の邪魔をするだろう。この場合、巴の《イグの双眸》により発生するP O W対抗に勝利する必要がある。だが、対抗ロールに勝利しようが敗北しようが、この儀式は同様の理由により失敗に終わる。探索者たちが立ちすくむ、もしくは巴に触れようとした瞬間、彼女の手にしている蛇鏡に異変が起こるためである。蛇巫の願いに反応し、蛇鏡がイグの世界と繋がってしまったのだ。



巴の呪詛に応じて、イグが鏡の中から現れようと顔を出そうとする。この未知の恐怖に怯えた巴が拒絶の言葉とともに鏡を落としてしまう。それによって、イグは一度鏡の向こうへと戻る。鏡の異常とイグの姿を一瞬見てしまった探索者たちは 1 / 1 D 8 の正気度を喪失する。正気度の減少値次第では、探索者は発狂状態になるため、万が一探索者が発狂した場合は、K P は直後の凜子とのやりとりに大きな支障が出ないように狂気内容を自ら決定するとよい。特に、殺人癖等が出ないよう注意すべきである。

イグがいなくなつた後は間髪いれずに白井凜子が神社にやってくる。物語の秘密を全て知る彼女は、まるで何もできない探索者たちをあざ笑うように行動するのだ。青い顔をしている探索者たちに対し何食わぬ顔で微笑みかけながら、彼女は巴と蛇鏡の回収を行おうとする。

このイベントが起こる頃には、探索者たちは白井凜子の危険性を認識しているため、争いになる可能性がある。そのため、凜子に複数人の警察官を連れて登場させるとよいだろう。抵抗手段を持ち得ない探索者たちは、おとなしく凜子に巴と蛇鏡を渡すことになるだろう。

■ 守谷家

守谷家は武家屋敷という言葉がしっくりくる、立派な門構えの屋敷である。建物は探索者の実家に比べると新しいものであることが一見して分かる。これは、美沙が当主になる際の脱皮ノ儀の後に美沙の手配で屋敷に火が放たれた結果である。また、守谷家では 10 数名の若い家政婦が働いている。

シナリオ中では、旅行三日目の夜から執り行われる当主交代の儀の準備のために、家政婦たちが忙しそうにしている。旅行三日目以前に探索者たちが守谷家を尋ねた場合、屋敷の前に家政婦たちが集まっている、「当主交代の儀の日の夜から休暇を与えられている」とこと、「白井凜子を除く家政婦全員で温泉旅行に出かける」ことなどを雑談で話をさせておくとよい。

【イベント12：巴捜索の依頼】発生日時：二日目（任意）

探索者が守谷家を訪れた場合に発生。探索者がなかなか守谷家にこないようであれば、白井凜子を探索者の実家に送り、守谷家に連れて行ってしまうとよいだろう。（この時、諏訪大社の【イベント7：何かに話しかける巴】にて財布を拾っていた場合は、白井凜子から探索者たちに対して好意的に礼をさせるとよいだろう）

守谷家の客間に通された探索者たちは、家出をした守谷巴の捜索について、守谷美沙と白井凜子から依頼を受ける。それから口止め料として、凜子を通して多額の金を手渡される。警察にいかない理由を問われた場合、凜子の口から「巴は明日には守谷家の当主となる身であり、世間に対して恥を晒したくない」ということをいう。探索者が〈心理学〉を行った場合、嘘ではないが、何か別の意図がある様子を感じる。

この時、家出したという巴の居場所について、美沙に尋ねても何も情報が得られない。また、巴がどこにいるのか分からぬ彼女は非常に機嫌が悪く、〈心理学〉に成功した場合、彼女がどこか焦っていることが分かる。これは、巴が脱皮ノ儀に必要な蛇鏡まで持ちだして消えてしまったためである。彼女は自分の計画が狂い始めてきていることを感じているのだ。

対して、凜子は巴の居場所を知っているのだが、彼女の横恋慕の結果見たさに主である美沙にさえ隠し事をしている。彼女は愛嬌ある外見とは裏腹に、非常に飄々としており、美沙もその意図を見抜けないのである。

☆【イベント13：守谷家への侵入】発生日時：三日目（夜行動中）

探索者の実家での【イベント6：慎太郎の願い】の終了後、探索者と慎太郎（あるいは佳子）は日が沈んだ後、守谷家の潜入を試みる。家政婦たちのいなくなった守谷家の見張りは白井凜子しかいないことと、儀式のためか電灯が点いておらず、蠟燭の僅かな明かりが廊下につづいているだけである。夜の闇を利用し適切な方法をとれば彼女に気付かれず守谷家へと侵入できるだろう。ここで、いくつかの侵入パターンを提示しておく。KPは以下の方法を採用してもよいし、別の手段を自ら考えて用いてもよい。

①守谷家裏の堀に穴：巴がよく屋敷を抜け出す時に利用していた穴がある。SIZ が小さい探索者であれば、この穴を通って屋敷の裏庭に入つて裏門を開けて仲間たちを敷地に入れることができる。

②堀を越える：〈登攀〉や〈跳躍〉成功した場合に堀を越えて裏庭に入ることができる。事前に持ち運びできる梯子などを用意していた場合には成功率に補正を入れてもよいだろう。

もしも、愚かにも正面突入したり、ダイス運の悪さによって凛子と遭遇した場合、彼女は容赦なく探索者たちを攻撃することになる。彼女は人を殺すことにも躊躇はないだろう。彼女との戦闘が始まってしまった場合、探索者が一名残ることで仲間を逃がすことができるようにもよいだろう。

儀式の行われている場は真っ暗い屋敷の中で唯一離れに明かりがあるため、探索者は迷わず儀式場に行けるだろう。本シナリオでは、守谷家は離れ以外の場所が探索範囲になっていない。KP は離れが儀式場であることを分かりやすく説明して、探索者たちを誘導すべきである。必要であれば、探索者を焦らせるような演出を挟むとよいだろう。

次項の【イベント 14：当主交代ノ儀】へ続く

☆ 【イベント 14：当主交代ノ儀】発生日時：三日目（夜行動中）

明かりのついた離れ。その格子窓から二人分の人影が漏れている。探索者たちはそれが美沙と巴のものであることがすぐに分かるだろう。離れからは妙な呪詛が聞こえてくるが、それはヘビ語であるため、探索者たちには何の言語かは分からないだろう。

離れの中には美沙と巴が「脱皮ノ儀」を行っている。この儀式が終わった時、美沙の精神は巴の肉体へと移動することになる。巴は美沙の催眠術を受けており、うつろな目で美沙の唱える呪詛を反芻している。その目には生気がなく、自らの意志で動くこともできない状態である。それから、部屋に設けられた祭壇には、「蛇鏡」が安置されている。

○ 戦闘処理

探索者たちが道中で白井凜子と遭遇しないで離れまで到着していた場合、美沙の不意を打って儀式場に突入できる。美沙は探索者たちが突入すると、驚きながらも容赦なく攻撃を行うだろう。白井凜子がまだ巡回を続けている状態であれば、戦闘の開始に $1D3+1$ を振って彼女が到着するまでのラウンドを決める。出目と同じラウンドの終了時に白井凜子は離れに到着し戦闘に加わることになる。

戦闘配置は部屋の最奥に「蛇鏡」、その手前に「守谷美沙」と「守谷巴」が配置される。

美沙はニヨグタのわしづかみ(ルールブック p. 276)やその他KPが適切と考える呪文を行使して応戦してくるだろう。

巴は催眠状態であり、自ら動くことはないため戦闘において利害は皆無である。慎太郎がいる場合、戦闘開始時に彼は巴を部屋の隅まで引っ張っていくため、両名は戦闘から離脱する。

蛇鏡はSTR対抗ロールもしくは鏡を攻撃することで破壊可能であるが、美沙がそれを守るように立っているので鏡に接近することができない。もしも、探索者が美沙を無視して鏡を割りたいと考えるのであれば、守谷美沙とのDEX対抗ロールに勝利した場合、美沙を抜いて鏡の前に到着できるものとする。

この戦闘の終了条件は二つある。

- ① 「美沙を殺害もしくは気絶させる」
- ② 「蛇鏡を破壊する」である

○ 戦闘終了後

①の条件で戦闘を終了させた場合、蛇鏡に異変が生じる。守谷神社での時同様に、鏡の表面が波打つのである。そして、鏡の向こうからイグが首と手を伸ばし、探索者たちに襲い掛かってくる。この場合の戦闘は、守谷美沙と同様にイグのDEXと対抗ロールを行い、成功した場合は鏡に接触できる。その後に、鏡とのSTR対抗ロールか、物理攻撃で鏡を破壊した場合、イグは消えていなくなるが、イグに掴まれている探索者がいた場合、その者も一緒にクン・ヤンヘと連れて行かれることになる。

②の条件で戦闘を終了させた場合、最後にイグが悪あがきとして鏡の向こうから鏡を割ったものに手を伸ばしてくる。イグに掴まれた探索者はそのまま鏡の向こう、イグの住む暗闇の世界、クン・ヤンへと連れて行かれてしまう。探索者がイグの手から逃れられるかはK Pの裁量次第だろう。

いずれのルートにおいても、イグは消滅する際に守谷美沙の身体を掴みクン・ヤンへと連れて行ってしまう。

白井凜子が戦場に到着する前にイグが消滅した場合、すべてが終わった場に白井凜子が現れる。彼女は美沙がクン・ヤンにいってしまったことを知っても特に悲しんだ素振りをみせない。それどころか、「愛しあうふたりはいつも一緒、素敵なことだと思いませんか?」といって笑みを浮かべる始末である。それから白井凜子は「はやく逃げないと丸焦げになってしまいますよ」と言い残して姿を消す。突然、彼女が姿を消し、衣服が床に落ちたと思いきや、その中から白いヘビが素早く這い出てきて、格子窓から飛び出していくのである。

白井凜子が登場してからいなくなるまでの会話で、彼女の口からシナリオの背景を仄めかすような発言をさせてよいだろう。

次項の【イベント15：守谷家からの脱出】へ続く

【エネミー】鏡から現れたイグ

能力値はルールブック p.206-207 の「イグ」を参照のこと。基本ステータス及び技能値はルールブックのものと同じであるが、狭い鏡の中から手を伸ばしていることからDEXの数値のみ9とする。

攻撃方法：「手でつかむ」のみ行う

備考：戦闘の第一ラウンドは攻撃しない(首と両手を鏡から出すのに手こずっているため)

正気度喪失：1 / 1 D 1 0 + 1

☆【イベント15：守谷家からの脱出】発生日時：三日目（夜行動中）

白井凜子が去った後、探索者たちは外から何かが焼けるような匂いがしてくることや、屋敷の方がやけに明るいことに気づく。

前回の当主交代同様に、凜子は美沙の指示に従い屋敷に火を放っていたのである。

探索者たちと慎太郎（佳子が同行していた場合は佳子）が外に出ると、炎に包まれる守谷屋敷があった。離れにはまだ火の手はまわっておらず、探索者たちはすぐに脱出できる。屋敷の前には人だかりが出来ており、その中には佳子（佳子が同行していた場合は慎太郎）もいる。夫婦は抱き合った後、佳子の目を覚ませようとする。ふたりの呼びかけによって巴はすぐに催眠状態から目覚める。何が起きたのか理解がまだできていない巴に対し、佳子はその頬を容赦なく叩く。それから、「馬鹿…！心配、したんだからね。巴に何かあつたらって思ったら何より怖かった……」といって、佳子は巴を優しく抱きしめてわんわんと鳴き始める。それを受け、巴もまた涙を流して泣く。巴は、「ごめんね。ごめんね。それから佳子、おめでとう……。産んであげてね、元気な赤ちゃん……」と、謝りと祝福の言葉を彼女に贈る。

事件は終わったのである。守谷美沙の野望は潰えた。燃える屋敷が忌まわしき歴史をすべて灰燼に帰すように燃え続けるのみであった。

お人好しの探索者がいるならば、この後にK Pは巴の禁断の恋路に決着をつけるための物語を蛇足にならない程度に展開してもいいだろう。特に、この時点においても佳子は未だに、巴が慎太郎を奪った自分を恨んでいるのだと思い込んでいる可能性がある。その誤解を探索者が解いてあげてもよいかもしれない。

次項の【イベント16：ED】へ続く

☆【イベント16：ED】発生日時：三日目（夜行動中）

事件が終わり、探索者たちは諏訪を後にする。それから暫くの月日が経ち、佳子と慎太郎、それから巴からの手紙が届く。

便箋の中には、人間の姿をした赤子の写真と、守谷巴からの感謝の言葉が書かれた手紙が入っている。

守谷巴がその後、佳子との問題をどのように解決したのか、それから彼女が現在何をしているのかはK Pが自由に描いてよい。

あるK Pは大団円を望むかもしれない。またあるK Pは背後に恐怖の潜む結末を望むかもしれない。この物語の締めくくりがどのような雰囲気になるかは、K Pが自由に決めるべきだろう。

9. ゲーム終了後の処理

ゲームをクリアによる正気度の回復を行う。

探索者たちが守谷美沙の恐るべき野望を阻止し、守谷巴を救った探索者は 1D6 + 1D3 の正気度を回復する。

さらに、KPは、巴の恋路を助けたと考える探索者を選び、更に 1D3 の正気度を回復させてよい。

シナリオ中で「ヌカフハフ」、「守谷の神秘」、「守谷ノ神秘術」のいずれかを読んだ者は〈歴史〉を +3 の成長させる(重複しないものとする)

シナリオ中で「ヌカフハフ」、「蛇と女」のいずれかを読んだ者は〈オカルト〉を +3 成長させる(重複しないものとする)

KPから巴の恋路を助けたと認定された者は、〈信用〉を +3 成長させる

以上でゲーム終了後の処理を終える。

おまけ。「もっと神話・伝承色をもたせたい」という KPのために

上記のデータはシナリオを進めるのに必要なものをまとめたものである。おまけデータとして記述するが、このデータを採用するかどうかは自由である。

シナリオの神話や伝承の雰囲気を高めたいと考える KPのために、以下の情報とアイテムデータをまとめておく。KPはシナリオの中で用いたいと考えた場合、適宜、以下のデータをシナリオの中に組み込んでよい。

【情報】塞の神

「道祖神」、「辻の神」、「岐の神」、「巷の神」とも呼ばれる。

土地の道には人以外に靈魂が入ってくることがある。靈魂の中には悪霊といった人に災いを及ぼすものも含まれており、その侵入を塞ぐために祀られるのが塞の神である。

このように強大な力を持つ塞の神であるが、その反面、正しく祀らねば災いが生じると考えるものもいる。

民俗学者の柳田國男は、自身の著書「石神問答」の中でミシャグジが塞の神であると指摘している。彼によると、その名の「シャグ」は境界を意味する「サク」のことであり、ミシャグジとは諏訪と外界の境界をつくり、守護する神であるという。

※シナリオ中に、ミシャグジについて焦点があたってきたときに情報公開するとよい。求める技能は〈オカルト〉、〈博物学〉、〈歴史〉、〈知識〉が妥当だろう。

【アイテム】鉄輪

情報：小さな古びた鉄の輪。鏽びきっており、ボロボロである。

効果：探索者が所持していた場合、【イベント14：当主交代ノ儀】でのイグとの戦闘において、イグの〈手でつかむ〉を一度だけ防いでくれる。

取得場所：守谷神社の社の中（ご神体として安置されている）

備考：ミシャグジ（イグ）を祀るための鉄輪。イグが鉄輪を見たことで、一瞬注意を鉄輪に向け、動きを止めてしまう等の描写をいれるとよいだろう。

【情報】鉄輪

諏訪大明神絵巻などの伝承では、建御名方神が諏訪を訪れた際、ミシャグジと争いが起きたという。

この時、ミシャグジは鉄輪をもって建御名方神を迎え撃ったとされている。また、蛇と輪には密接な関わりがあり、西洋のウロボロス（尾を飲み込む蛇）は円環の形をつくっている。円環とは、生と死や永遠性などを示していると考えられており、これらは蛇にもまた同様のイメージが持たれている。

※鉄輪を発見する、もしくは「ミシャグジ」の情報を得た時に一緒に情報公開するとよいだろう。